



平成27年度【東北大学学生生活調査】のまとめ

東北大学生の生活

Life of Tohoku University
Students



TOHOKU
UNIVERSITY



平成27年度

【東北大学学生生活調査】のまとめ

東北大学生 の生活

Life of Tohoku University

Students

はじめに

ここに2015（平成27）年度に行った第II回「東北大学学生生活調査」のまとめである「東北大学学生の生活」をお届けします。

東北大学の学部と大学院に在籍する学生を対象にしたこの「学生生活調査」の目的は、「学生生活の実態を把握し、東北大学においてよりよい生活を送ってもらうための基礎資料を得ること」です。第I回調査は1995（平成7）年度に行われました。以後、隔年で実施しており、今回でII回目になります。分析した結果は、第4回調査までは冊子体の報告書を作成して内部資料としていましたが、第5回調査からはこのようなリーフレット形式の概要版を作成し、広く公表しております。

上記の目的のように、アンケートにより学生の皆さんが置かれている環境をより詳しく把握することで、よりよい学生生活を送ってもらうための施策立案に資することを目指していますが、直接挙げられた要望が実現したこともこれまで多々ありました。たとえば、川内北キャンパスの学生食堂の改修や増築、キャンパスバスの試行的運行・整備、仙台市交通局の協力の下で市バスや地下鉄のフリーパスが導入されたことなどは、その例であります。また、カルト教団からのしつこい勧誘やブラック企業バイトに関する相談体制の整備、キャリア教育や就職活動に対する支援体制の充実なども、この生活調査が基になっております。その意味で、学生の要望を大学が把握する重要な機会とも位置付けることもできます。

今回の調査に当たり、2015年4月に学生支援審議会と学生生活協議会を統合し設置した学生生活支援審議会の下に「第II回東北大学学生生活調査ワーキンググループ」を設置しました。前回に続き今回もウェブサイトを利用したアンケート調査とし、10月28日から11月15日まで行いました。今回は最終的に2,811名の学生からの回答があり、全対象者数に対する割合は15.7%でした。これは前回に比べ、回答者数で約500名、割合にして2.5%上昇したことになります。これは各学生へのメールの送信、ポスターの掲示、学生支援だよりによる周知、回答した学生から抽選でUSBメモリを進呈するなどの施策が功を奏したものと判断しております。

本調査に参加された学生の皆さんに感謝いたします。また、ワーキンググループの各委員の先生方には、アンケート項目の検討・設定、調査への働きかけ、部局内での広報、回答の集計や分析に尽力していただきました。感謝申し上げます。最後に、本調査結果を各方面で様々な施策づくりに有効に生かしていくことを表明したいと思います。
2016年3月

東北大学 | 理事(教育・学生支援・教育国際交流担当)
学生生活支援審議会 委員長

花輪公雄

目次

A	調査に協力してくれた学生の皆さん	02
	調査の概要／回答者のプロフィール／東北大学に対する誇り／東日本大震災の影響	
B	通学	03
	キャンパス利用状況／通学のための交通手段・所要時間	
C	学習	04
	学習等にかかった時間／教職員との関わり／大学生生活の満足度／資格取得や就職のための活動	
D	研究	06
	登下校時間／研究関連の支出／自身が負担しているお金（過去1年間）／研究の進捗状況	
E	サークル・ボランティア活動	07
	学生会員としての意識／サークル加入状況／サークル加入の動機／ボランティア活動	
F	国際交流	08
	国際交流の経験／グローバルリーダー育成プログラム（TGLプログラム）／日本人学生の海外留学／外国人留学生の留学前の状況	
G	家庭・生活の状況	10
	住居の種別／配偶者・子供の有無／経済的支援者／家計支持者の職業／受けている経済的支援／入学後経験したアルバイト／アルバイト収入の使途／経済的ゆとり感	
H	キャンパス・周辺環境	12
	キャンパス・周辺環境の満足度	
I	心と体の健康	13
	学生相談所の利用経験、認知度／現在の悩みや迷い／悩みの相談相手／朝食について／大学における「居場所」感	
J	キャンパス内外での安全	14
	避難場所の認知度／キャンパスの安全性／海外渡航経験と旅行保険／事件・事故の被害	
K	ハラスメント	16
	本学のハラスメント問題への取り組み／ハラスメント相談窓口の認知度／ハラスメント被害の経験	
L	進路・就職	17
	インターンシップへの応募・参加経験／卒業後に希望する進路／希望する職業／勤務先として希望する機関等	



東北大学学生生活支援審議会 第11回東北大学学生生活調査ワーキンググループ

池田 忠義(高度教養教育・学生支援機構／学生相談・特別支援センター)	◎菅原 俊二(総長特別補佐(学生支援担当)／歯学研究科)
井上 千弘(環境科学研究科)	関内 隆(高度教養教育・学生支援機構／教育評価分析センター)
○猪股 歳之(高度教養教育・学生支援機構／キャリア支援センター)	高橋 忠志(教育・学生支援部)
粕壁 善隆(高度教養教育・学生支援機構／グローバルラーニングセンター)	手代木 雅子(教育・学生支援部)
木内 喜孝(高度教養教育・学生支援機構／保健管理センター)	日出間 純(生命科学研究科)

五十音順(◎委員長、○副委員長)

調査の概要

	学 部	大 学 院	合 計
文学部・文学研究科	100	28	128
教育学部・教育学研究科	41	11	52
法学部・法学研究科	67	20	87
経済学部・経済学研究科	114	21	135
理学部・理学研究科	216	187	403
医学部・医学系研究科	147	115	262
歯学部・歯学研究科	25	19	44
薬学部・薬学研究科	88	60	148
工学部・工学研究科	614	365	979
農学部・農学研究科	84	54	138
国際文化研究科	0	11	11
情報科学研究科	0	51	51
生命科学研究科	0	66	66
環境科学研究科	0	53	53
医工学研究科	0	34	34
教育情報学教育部	0	4	4
合 計	1,496	1,099	2,595
男	1,045	823	1,868
女	451	275	726
不明	0	1	1

※本報告書において、「大学院」とは博士課程前期二年の課程、博士課程後期三年の課程、修士課程、博士課程、専門職学位課程に在籍する学生の回答を指す。このうち、博士課程前期二年の課程、修士課程、専門職学位課程に在籍する学生の回答を「修士課程」、博士課程後期三年の課程と博士課程に在籍する学生の回答を「博士課程」と表記している。

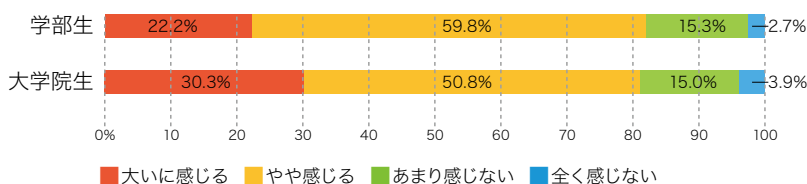
●「東北大学学生生活調査」は、東北大学に在籍する学生の勉学、日常生活上の意識および生活の実情を把握し、学生への支援を充実させていくための基礎資料を得ることを目的として平成7年度より隔年で実施されている。今回で第11回目の調査となり、東北大学学生生活支援審議会に設置された第11回東北大学学生生活調査ワーキンググループが実施に当たった。

●第11回東北大学学生生活調査は、東北大学の学部と大学院に在籍し、調査が可能であるすべての学生を対象として、平成27年11月に実施した。学生には個人宛メールを含む学内システムや掲示・配布物等を通じて調査実施を案内し、平成27年11月1日現在の状況について専用Webページで回答してもらった。回答者数は2,811名で、回収率は15.7%であった。このうち、本冊子の分析には2,595名分のデータを用いている。調査に協力してくれた学生の皆さんに感謝したい。

回答者のプロフィール

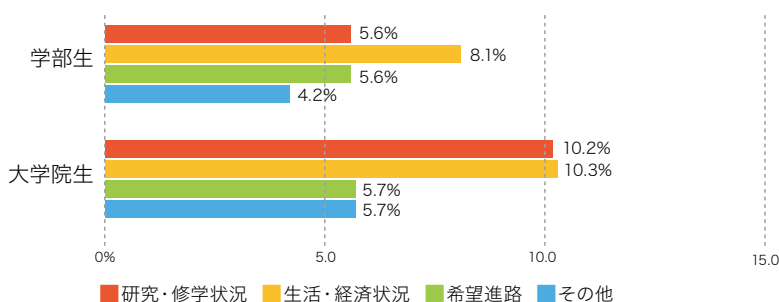
- 回答者の性別は、学部生が男性70%、女性30%で、大学院生が男性75%、女性25%であった。また、自身が留学生であると回答したのは、学部生では2%で、内訳は私費留学生が43%、国費留学生が48%、国費以外の奨学金留学生が10%であった。大学院生では16%が留学生で、私費留学生が47%、国費留学生が37%、国費以外の奨学金留学生が16%であった。

東北大学に対する誇り



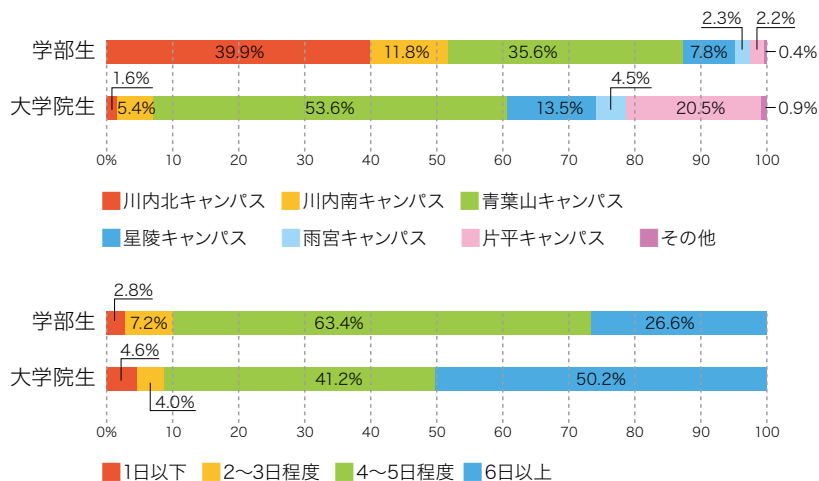
●現在の東北大学に対する誇りを、「大いに感じる」が学部生では22%、大学院生では30%であった。同様に「やや感じる」がそれぞれ60%、51%で、「あまり感じない」が学部生・大学院生ともに15%、「全く感じない」がそれぞれ3%、4%であった。

東日本大震災の影響



●「研究・就学状況」において、現在でも東日本大震災の影響を受け続けていると感じている学生は、学部生6%、大学院生10%で、「研究テーマが震災に関連していることや「研究施設・設備、データへの影響」などを挙げる学生が多い。また「生活・経済状況」で震災の影響を感じている学生は、学部生の8%、大学院生の10%で、「住居の損傷」や「世帯収入の減少」などを挙げる者が多い。「希望進路」に影響を感じているのは学部生・大学院生ともに6%で、「その他」は学部生4%、大学院生6%であった。

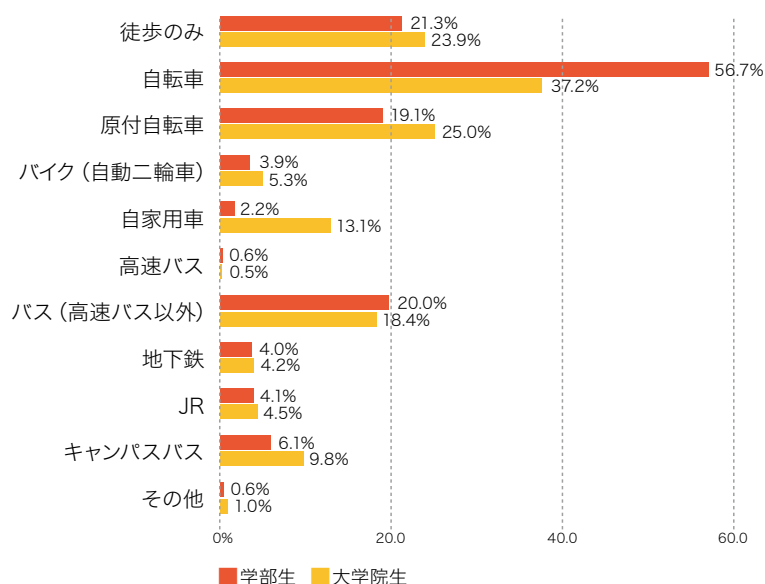
キャンパス利用状況



●東北大学の各キャンパスを訪れる学部生と大学院生の各々の延べ人数の割合は、川内北キャンパス40%、2%、川内南キャンパス12%、5%、青葉山キャンパス36%、54%、星陵キャンパス8%、14%、雨宮キャンパス2%、5%、片平キャンパス2%、21%であった。

●平成27年4月から7月の授業期間中に、各キャンパスを修学・研究のために訪問した日数の平均は各キャンパスともに、90%以上の学生が4日以上訪問し、学部生で4～5日程度、大学院生で6日以上が最も多かった。

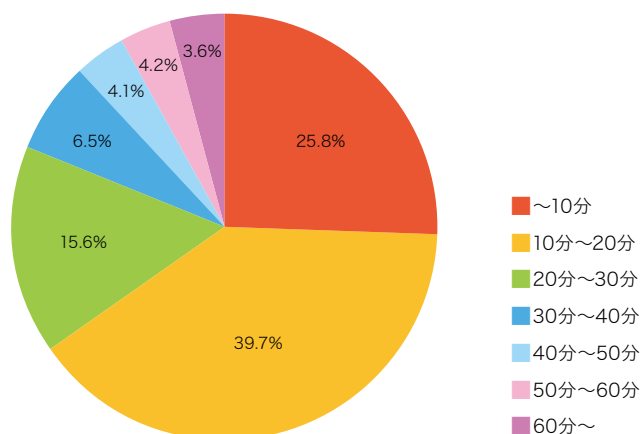
通学のための交通手段



●学部生・大学院生ともに自転車での通学が最も多く、次いで徒歩、原付自転車、バス(高速バス以外)の順であった。

●「自転車」、「原付自転車」、「バイク」、「自動車」の利用者のうち、任意保険未加入者の学部生と大学院生の各々の割合は、「自転車」26%、35%、「原付自転車」13%、12%、「バイク」3%、6%、「自動車」5%、2%であった。

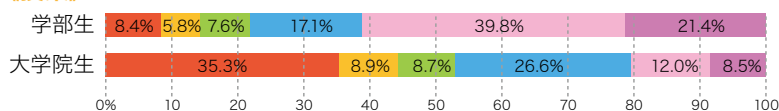
通学のための所要時間



●自宅から最も利用するキャンパスまでの片道の平均所要時間は、10分未満が26%、10分～20分が40%、20分～30分が16%で、80%の学生が30分以内であった。

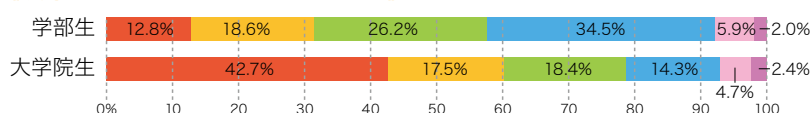
学習等にかけた時間（平成27年4～7月の授業期間中の平均的な1日あたり）

《授業》



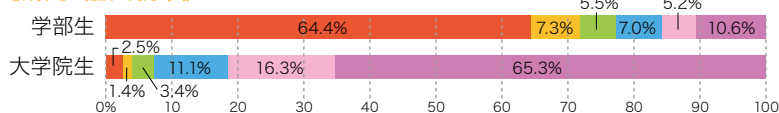
●「授業」に学部生では、0分が8%、60分未満が13%、60分以上が78%（うち5時間以上が21%）、大学院生では0分が35%、60分未満が18%、60分以上が47%であった。

《授業のための予習・復習・関連学習》



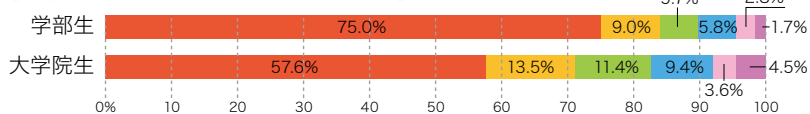
●「授業のための予習・復習・関連学習」に学部生は、0分が13%、60分未満が45%、60分以上が42%、大学院生では0分が43%、60分未満が36%、60分以上が21%であった。

《研究・論文執筆》



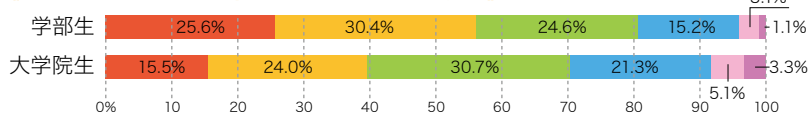
●「研究・論文執筆」に学部生は、60分以上が23%（うち5時間以上が11%）、大学院生では60分以上が93%（うち5時間以上が65%）であった。

《資格取得、採用試験等のための学習》



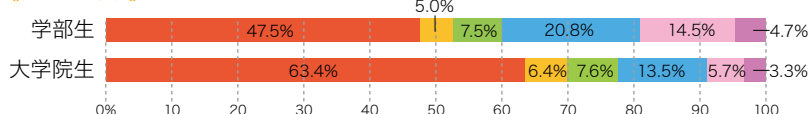
●「資格取得、採用試験等のための学習」に学部生は、0分が75%、60分未満が15%、60分以上が10%、大学院生では0分が58%、60分未満が25%、60分以上が18%であった。

《自分の知識や能力を高めるための学習・読書》



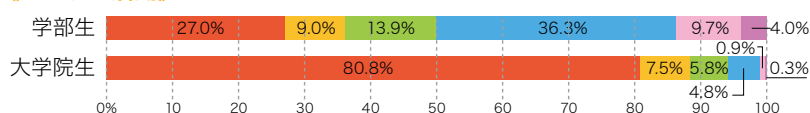
●「自分の知識や能力を高めるための学習・読書」に学部生は、0分が26%、60分未満が55%、60分以上が19%、大学院生では0分が16%、60分未満が55%、60分以上が30%であった。

《アルバイト》



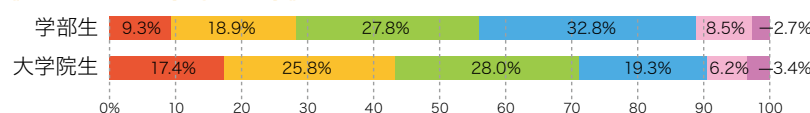
●「アルバイト」に学部生は、0分が48%、60分未満が13%、60分以上が40%、大学院生では0分が63%、60分未満が14%、60分以上が23%であった。

《サークル活動》



●「サークル活動」に学部生は、0分が27%、60分未満が23%、60分以上が50%、大学院生では0分が81%、60分未満が13%、60分以上が6%であった。

《友人と過ごす（上記以外）》

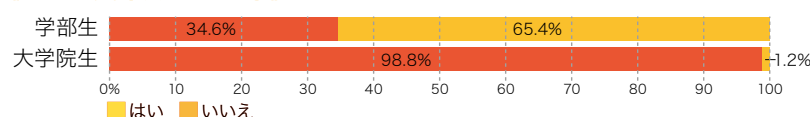


●「友人と過ごす（上記以外）」に学部生は、0分が9%、60分未満が47%、60分以上が44%、大学院生では0分が17%、60分未満が54%、60分以上が29%であった。

■ 0分 ■ 30分未満 ■ 30分～1時間未満 ■ 1時間～3時間未満 ■ 3時間～5時間未満 ■ 5時間以上

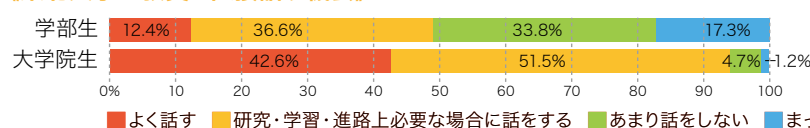
教職員との関わり

《指導教員（研究室配属）》



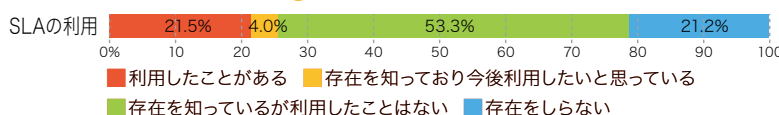
●「指導教員（研究室配属）」について学部生では35%、大学院生では99%が決定していると回答した。

《東北大学の教員と直接話す機会》



●「東北大学の教員と直接話す機会」について学部生では49%が、大学院生では94%が「よく話す」あるいは「必要な場合には話す」と回答した。

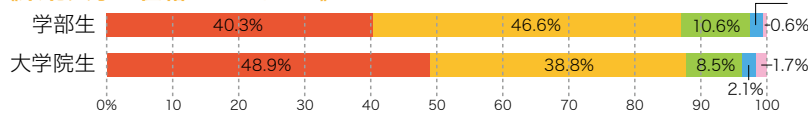
《SLA(Student Learning Adviser)によるサポート（学部生のみ）》



●「SLA(Student Learning Adviser)によるサポート」については、学部生では22%が「利用したことがある」と回答した。一方、学部生の21%が「存在を知らない」と回答した。

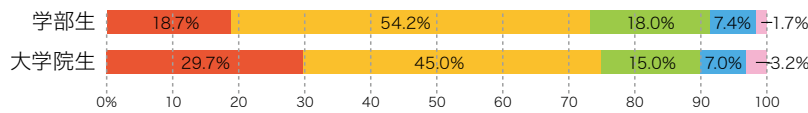
大学生生活の満足度

《東北大学に在籍していること》



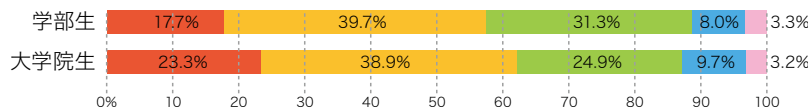
●「東北大学に在籍していること」について、学部生・大学院生ともに87～88%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《東北大学の授業や教育内容》



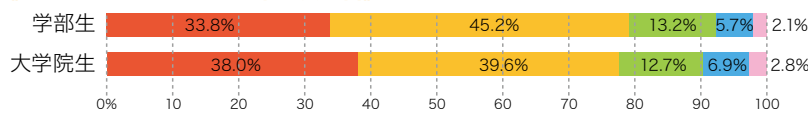
●「東北大学の授業や教育内容」について、学部生・大学院生ともに73～75%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《東北大学の学生支援体制》



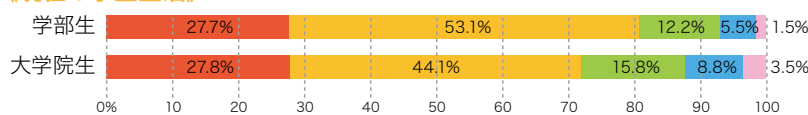
●「東北大学の学生支援体制」について、学部生では57%、大学院生では62%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《自分の所属している学部・研究科》



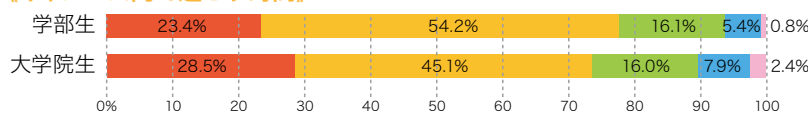
●「自分の所属している学部・研究科」について、学部生・大学院生ともに78～79%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《現在の学生生活》



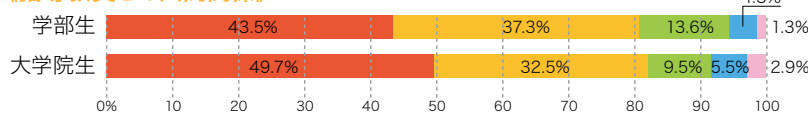
●「現在の学生生活」について、学部生では81%、大学院生では72%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《キャンパス内で過ごす時間》



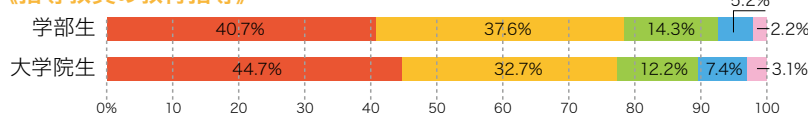
●「キャンパス内で過ごす時間」について、学部生では78%、大学院生では74%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《指導教員との人間関係》



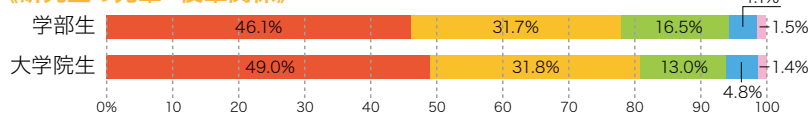
●「指導教員との人間関係」について、学部生・大学院生ともに82%前後が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《指導教員の教育指導》



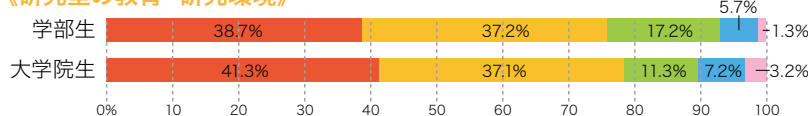
●「指導教員の教育指導」について、学部生・大学院生ともに77～78%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《研究室の先輩・後輩関係》



●「研究室の先輩・後輩関係」について、学部生では78%、大学院生では81%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

《研究室の教育・研究環境》



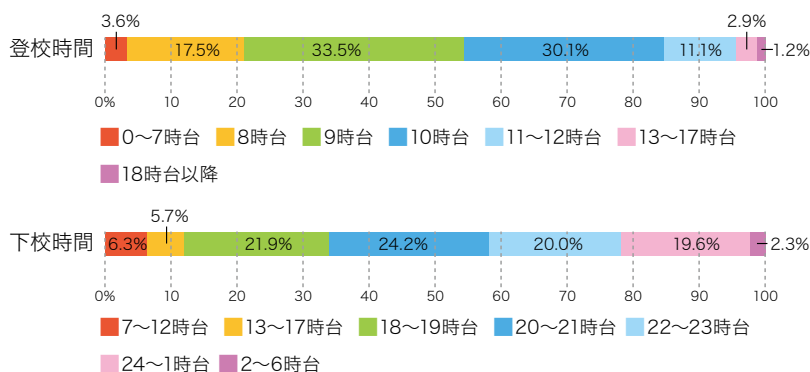
●「研究室の教育・研究環境」について、学部生では76%、大学院生では78%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

■満足している ■まあまあ満足している ■どちらともいえない ■少し不満である ■大いに不満である

資格取得や就職のための活動

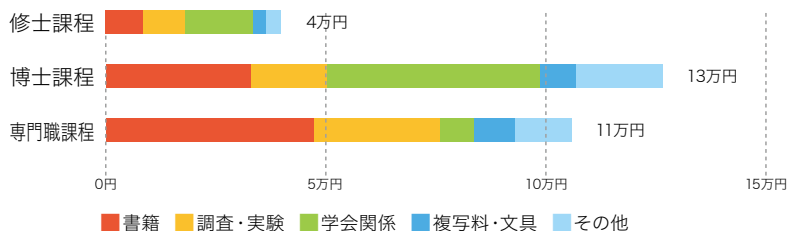
●「資格取得や就職のための予備校・スクール・講座等への通学」について、学部生では2%、大学院生では3%が「通っている」と回答した。

登下校時間



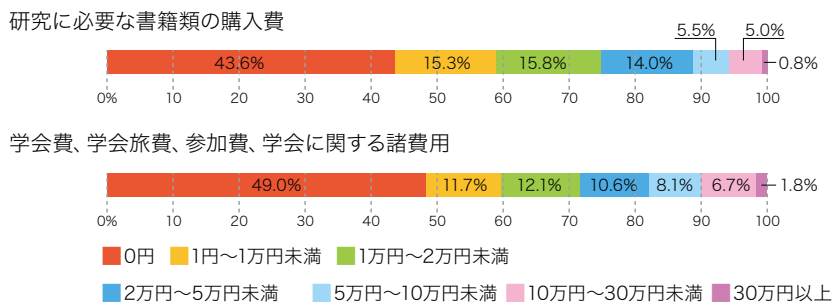
●90%の大学院生が午前中に登校し、そのうち51%は8時から10時の間に登校している。一方、18時から22時の間に約半数の大学院生が下校しているが、22時から24時と24時から2時にそれぞれ20%、2時以降に下校する学生も2%であった。

研究関連の支出



●年間あたりの研究に関連する個人的支出の平均は課程によって大きく異なり、修士課程では4万円、博士課程では13万円、専門職課程では11万円であった。内訳をみると、修士課程・博士課程では学会関係の費用がもっとも大きい割合を占めるのに対し、専門職課程では書籍代が支出のほぼ半分を占めていた。

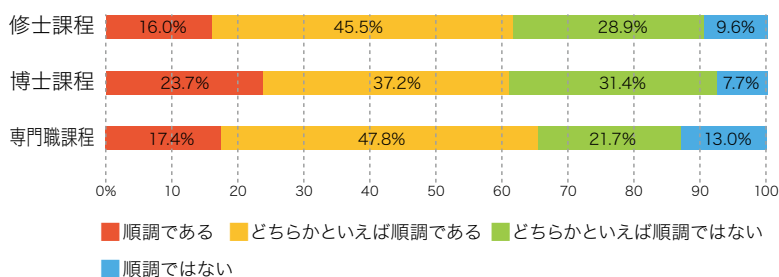
自身が負担しているお金 (過去1年間)



●研究に必要な書籍の購入費では、支出額ゼロが44%で、5万円未満が45%であった。

●学会関係の支出額の内訳をみると、大学院生の約半数は支出額がゼロで、5万円未満が34%であった。その一方で、年間支出額10万円以上と回答した者も10%ほどいた。

研究の進捗状況

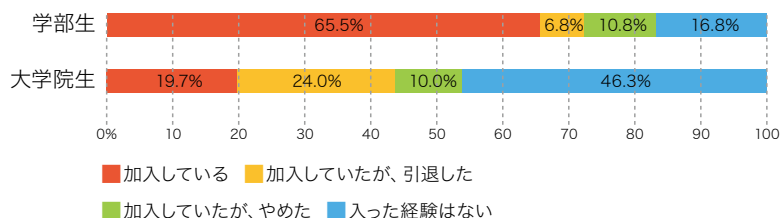


●課程修了に向けて、研究が「順調」または「どちらかといえば順調」と答えた大学院生は修士課程で62%、博士課程で61%、専門職課程で65%であり、いずれの課程でも順調な者が半数を越えていた。

学友会員としての意識

- 東北大学学友会は、すべての学生と教職員が会員の全学組織で構成されているが、自身が会員であることを知っていた学生の割合は、学部生70%、大学院生59%であった。

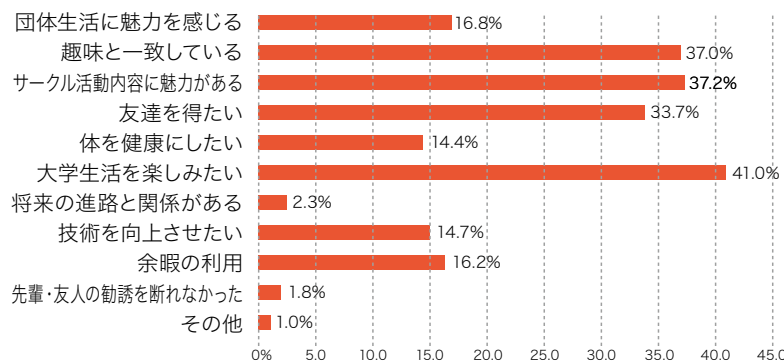
サークル加入状況



- 学部生では83%が学友会団体・サークルに加入した経験があり、現在も加入中の学生は66%であった。一方、大学院生の54%は加入経験があるものの、現在加入している学生は20%であった。

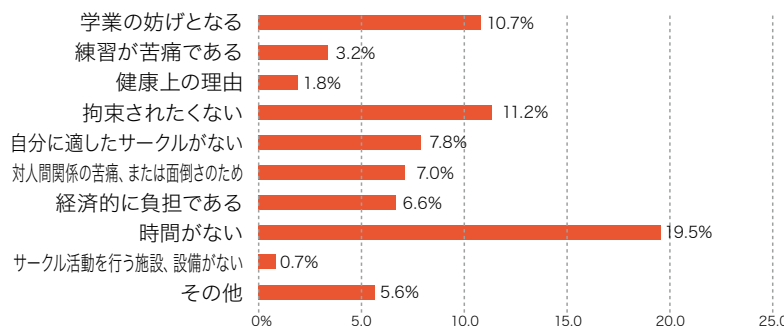
サークル加入の動機

《加入の動機》



- 加入した動機では、学部生・大学院生ともに、「大学生活を楽しみたい」、「サークル活動内容に魅力がある」、「趣味と一致している」、「友達を得たい」の順であった。

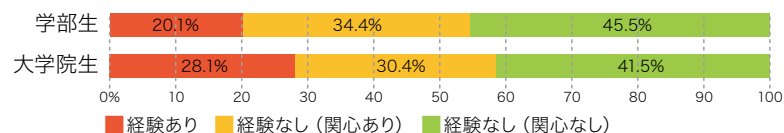
《やめた理由》



- サークルに加入していない、あるいはやめた理由では、「時間がない」、「拘束されたくない」、「学業の妨げとなる」、「自分に適したサークルがない」、「対人関係の苦痛・面倒さ」の順であった。また、その他の具体的理由として、「サークル活動に関する情報がない」などが挙げられた。

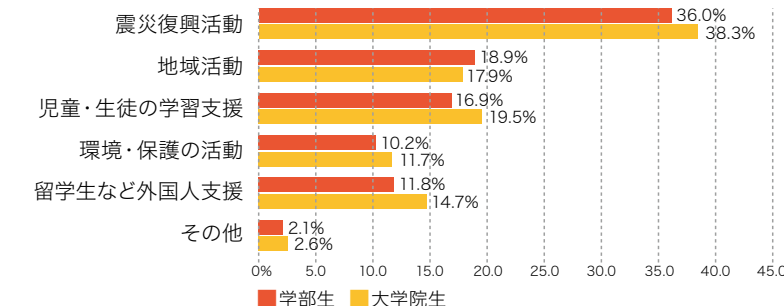
ボランティア活動

《ボランティア活動》



- 学部生の20%、大学院生の28%がボランティア活動を経験していた。そのきっかけは、学部生、大学院生ともに過半数が「自発的に」、約30%が「友人・知人の紹介」、約10%は「学内の掲示」であった。

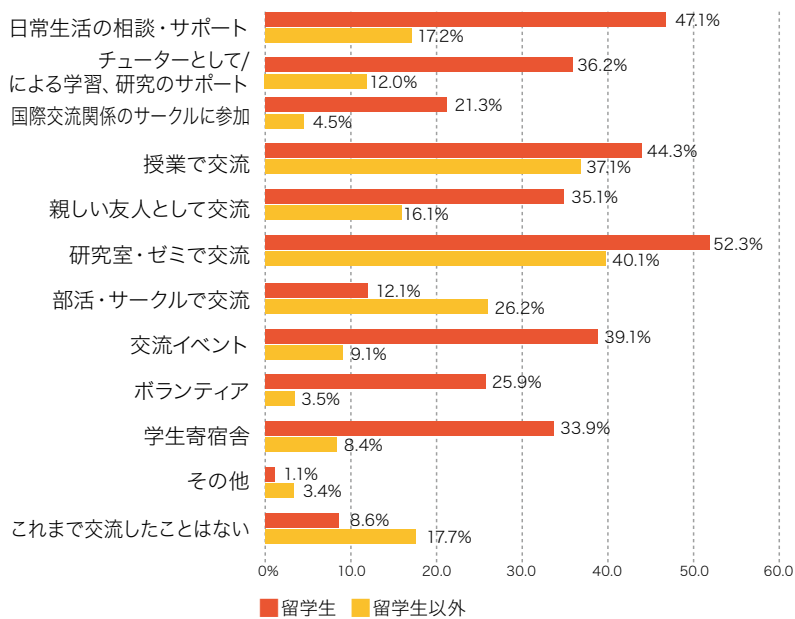
《活動の内容》



- 学部生および大学院生の約30%は、まだ経験は無いがボランティア活動に関心があると回答した。

- 活動内容は、およそ40%弱が「震災復興活動」、続いて「児童・生徒の学習支援」、「地域活動」、「留学生などの外国人支援」、「環境・保護活動」の順であった。

国際交流の経験 (複数回答)



●留学生は「研究室・ゼミでの交流」が52%と最も多く、「日常生活の相談・サポート」47%、「授業で交流」44%、「交流イベント」39%、「チューターとして/による学習、研究のサポート」36%、「親しい友人として交流」35%の順であった。

●一方で留学生以外の学生では、「研究室・ゼミで交流」が40%と最も多く、続いて「授業で交流」37%、「部活・サークルで交流」26%、「日常生活の相談・サポート」17%、「親しい友人として交流」16%の順であった。

●これまでに国際交流をしたことのない学生は、留学生は9%、留学生以外は18%であった。



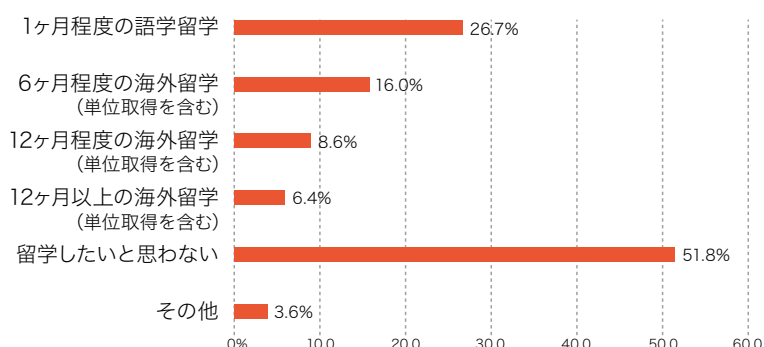
グローバルリーダー育成プログラム (TGLプログラム)

●東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)は、産学官の様々な分野でグローバルに活躍する人材を育成するために、平成25年度から始まった学部生対象の登録制プログラムである。TGLプログラムについて知っていたのは、留学生が全体の67%で、そのうち登録しているのは全体の19%であった。一方、留学生以外では、全体の70%が知っており、そのうち登録しているのは全体の24%であった。

日本人学生の海外留学 (複数回答)

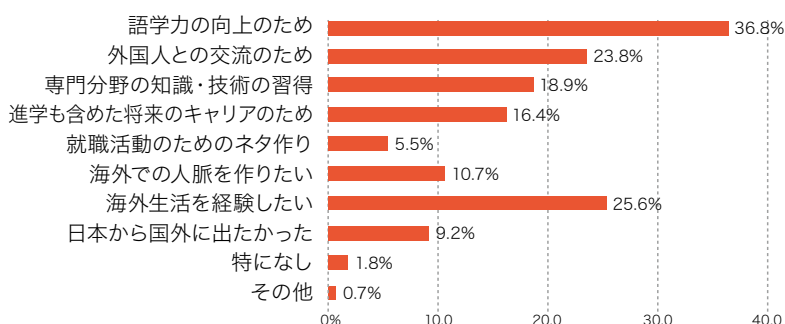
●東北大学入学後、大学内外の留学制度等を利用して留学したことがある学生は、全体の11%であった。そのうち「東北大学のスタディアブロードプログラムを使って短期留学をしたことがある」学生が6%と最も多く、「東北大学の各学部で提供するプログラムを使って海外研修・留学・海外インターンシップ等をしたことがある」4%、「東北大学の学術交流協定を使って交換留学をしたことがある」2%、「民間の留学仲介を通じて留学・海外インターンシップをしたことがある」1%の順であった。

●留学期間は、1か月以内の学生が72%と最も多く、「2か月」9%、「3か月」と「12か月」が3%の順で、全体の84%が「3か月以内」の留学であった。



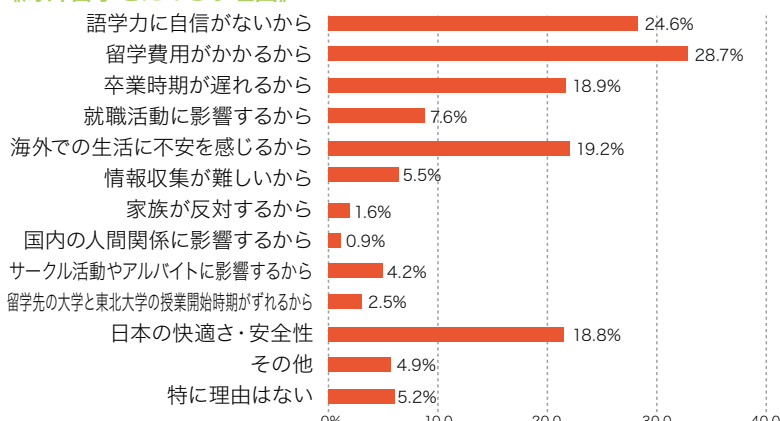
●在学中の海外留学について、「1ヶ月程度の語学留学」をしたい学生が27%と最も多く、「6ヶ月程度の海外留学(単位取得を含む)」16%、「12ヶ月程度の海外留学(単位取得を含む)」9%、「12ヶ月以上の海外留学(単位取得を含む)」6%の順であった。一方、「留学したいとは思わない」と答えた学生が52%であった。

《海外留学をしたいと思う/思った理由》



●海外留学をしたい理由としては、「語学力の向上のため」が37%と最も多く、「海外生活を経験したい」26%、「外国人との交流のため」24%、「専門分野の知識・技術の習得」19%、「進学も含めた将来のキャリアのため」16%の順であった。

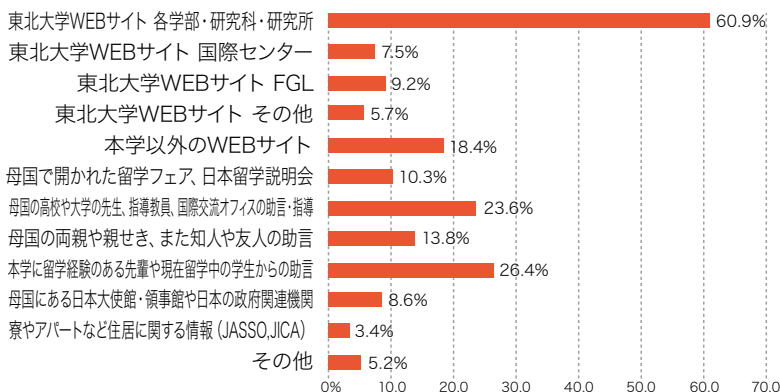
《海外留学をためらう理由》



●海外留学をためらう理由としては、「留学費用がかかるから」が29%と最も多く、「語学力に自信がないから」25%、「海外での生活に不安を感じるから」19%、「卒業時期が遅れるから」19%、「日本の快適さ・安全性」19%の順であった。

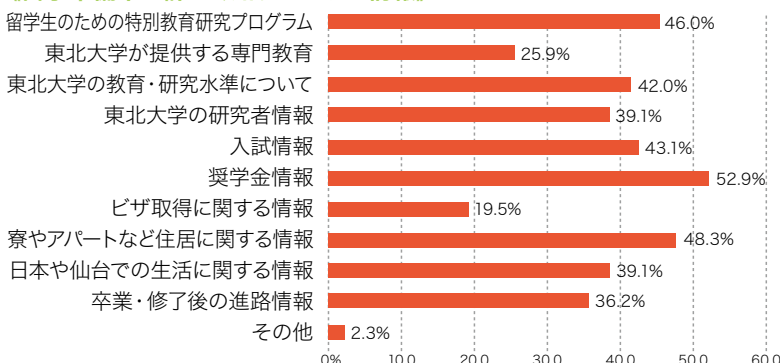
外国人留学生の留学前の状況 (複数回答)

《どのようにして留学プログラムを知りましたか》



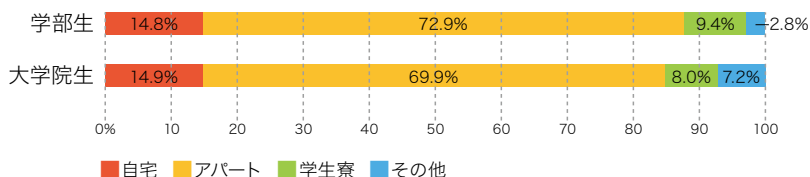
●留学前に東北大学の留学プログラムを知った方法は、「東北大学WEBサイト 各学部・研究科・研究所」が最も多く61%であった。続いて「本学に留学経験のある先輩や現在留学中の学生からの助言」26%、「母国の高校や大学の先生、指導教員、国際交流オフィスの助言・指導」24%、「本学以外のWEBサイト」18%、「母国の両親や親せき、また知人や友人の助言」14%という順であった。

《留学準備中に詳しく知りたかった情報》



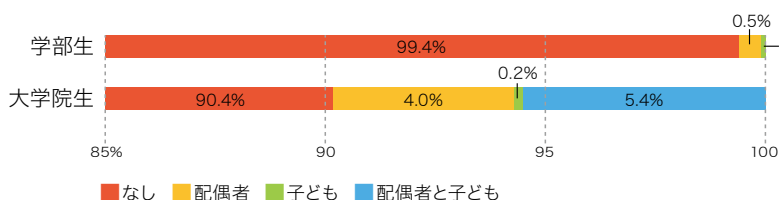
●留学のために、事前にもっと詳しく知りたかった情報は、「奨学金情報」53%と最も多く、続いて「寮やアパートなど住居に関する情報」48%、「留学生のための特別教育研究プログラム」46%、「入試情報」43%、「東北大学の教育・研究水準について」42%であった。続いて「東北大学の研究者情報」と「日本や仙台での生活に関する情報」が共に39%であった。

住居の種類



●現在の住居の種類は、学部生では「自宅」が15%、「アパート、学生ハイツ、マンション」が73%、「(東北大学)学生寮、ユニバーシティ・ハウス」が9%、大学院生では「自宅」が15%、「アパート」が70%、「学生寮」が8%であった。

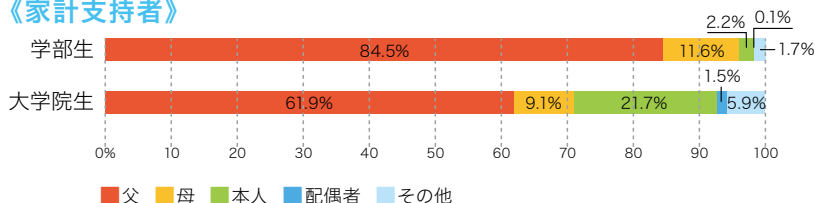
配偶者・子供の有無



●生計を共にしている配偶者がいるのは、学部生の0.5%、大学院生の9.4%であった。

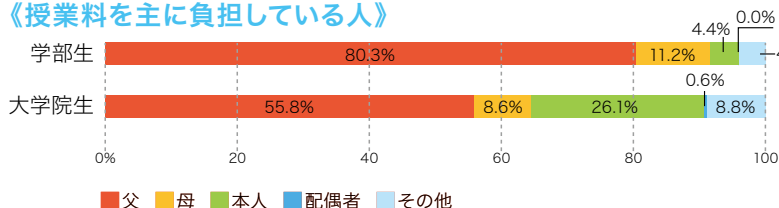
経済的支援者

《家計支持者》



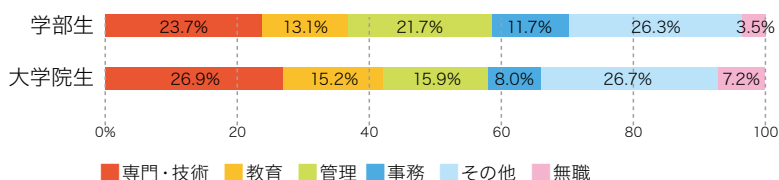
●主たる家計支持者が「父母」である者は、学部生では96%、大学院生では71%であった。「本人」と回答したのは学部生では2%、大学院生では22%であった。

《授業料を主に負担している人》



●主たる授業料負担者として、「本人」と回答したのは、学部生では4%、大学院生では26%であった。

家計支持者の職業

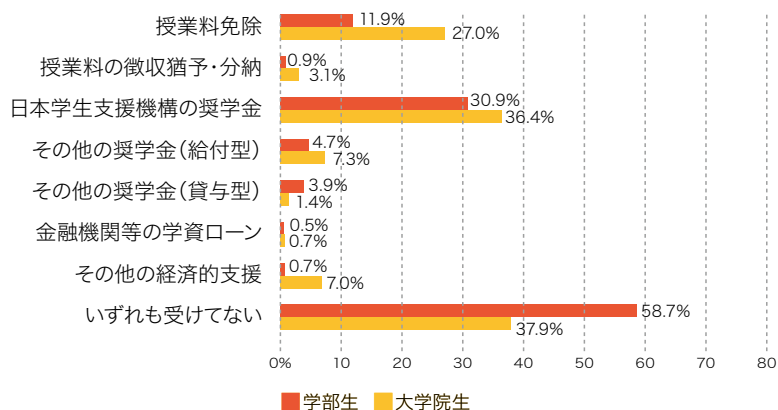


●主たる家計支持者の職業は、学部生では「専門的・技術的職業」が24%、「教育的職業」が13%、「管理的職業」が22%、「一般事務」が12%、「無職」が4%、大学院生では「専門的」が27%、「教育的」が15%、「管理的」が16%、「一般事務」が8%、「無職」が7%であった。



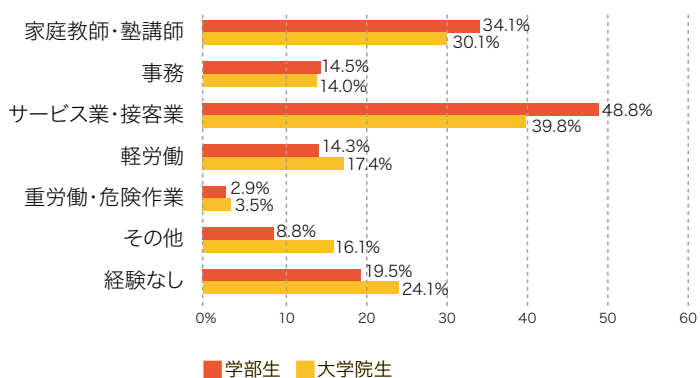
- 学業成績優秀者を優遇してほしい／給付型奨学金や奨励金があると学業への意欲があがる。
- 制度がわかりづらかったり広報が十分でないと感じる時があるので、もっとPRしてほしい。
- 大学院、特に博士課程の学生に対して経済的援助、奨学金プログラムを充実させてほしい。
- ユニバーシティ・ハウスはとてもいいシステムなので、多くの人が長い間住めるようにしてほしい。
- 学寮の寄宿料が少々高くても安全、クリーンな寮に変えて、寮の質を上げてほしい。

受けている経済的支援（複数回答）



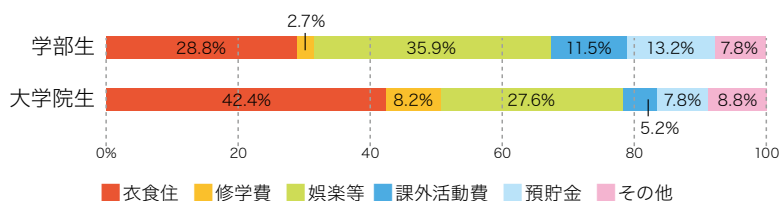
- 学部生の41%、大学院生の62%が何らかの経済的支援を受けていた。
- 奨学金の内容は、日本学生支援機構の奨学金が最も多く、学部生の31%、大学院生の36%が利用していた。
- 授業料免除を受けているのは、学部生の12%、大学院生の27%であった。

入学後経験したアルバイト（複数回答）



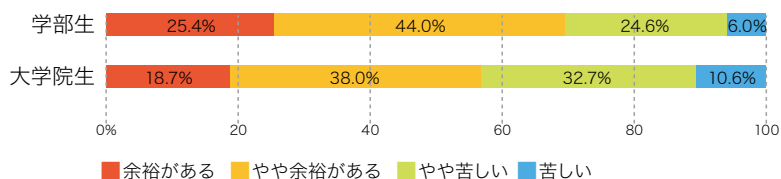
- 学部生の81%、大学院生の76%が東北大学入学後に、何らかのアルバイトを経験していた。
- アルバイトの種類は、学部生では「サービス業・接客業」が49%、「家庭教師、塾講師」が34%、「軽労働」が14%、「事務」が15%、大学院生では「サービス業」が40%、「家庭教師、塾講師」が30%、「軽労働」が17%、「事務」が14%であった。

アルバイト収入の使途



- アルバイト収入の使用目的は、学部生では娯楽、レジャー、旅行の「娯楽等」が36%、「衣食住」の費用が29%、「預貯金」が13%、「課外活動費」が12%、大学院生では「衣食住」が42%、「娯楽等」が28%、授業料、勉学費、資格取得等の費用に当てる「修学」が8%であった。

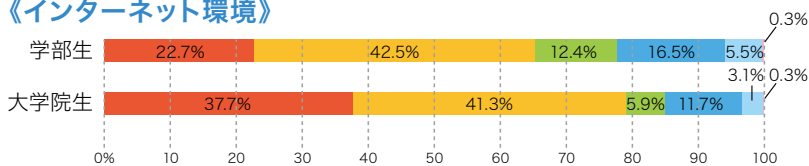
経済的ゆとり感



- 学部生では6%が「苦しい」、25%が「やや苦しい」と回答し、大学院生では11%が「苦しい」、33%が「やや苦しい」と回答した。

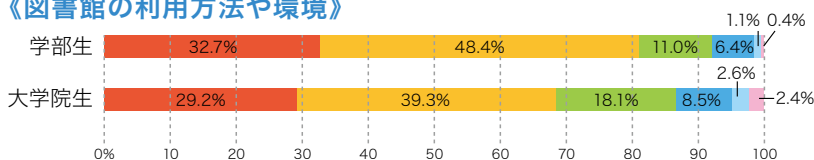
キャンパス・周辺環境の満足度

《インターネット環境》



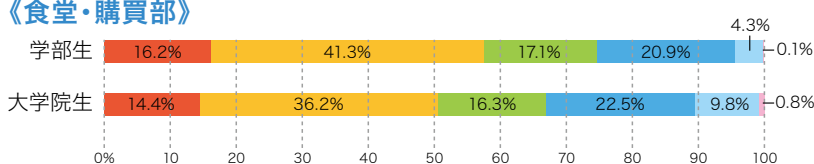
●「インターネット環境」については、学部生の65%、大学院生の79%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《図書館の利用方法や環境》



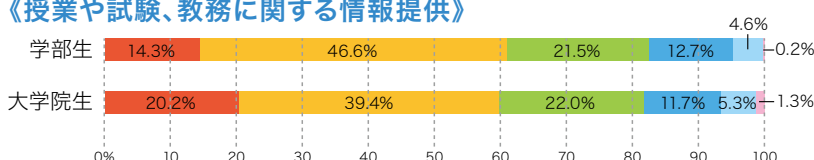
●「図書館の利用方法や環境」については、学部生の81%、大学院生の69%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《食堂・購買部》



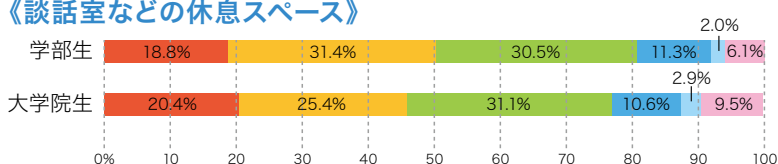
●「食堂・購買部」については、学部生の58%、大学院生の51%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《授業や試験、教務に関する情報提供》



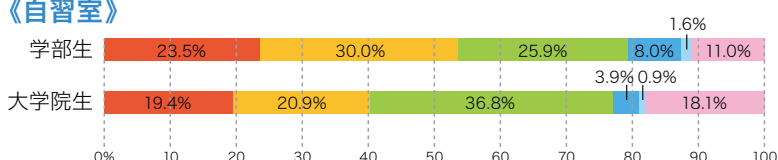
●「授業や試験、教務に関する情報提供」については、学部生の61%、大学院生の60%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《談話室などの休息スペース》



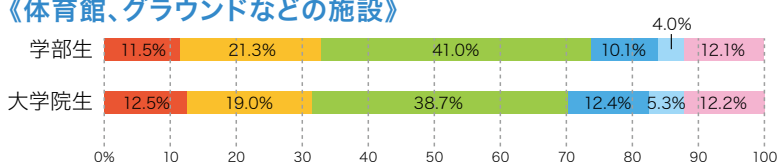
●「談話室などの休息スペース」については、学部生の50%、大学院生の46%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《自習室》



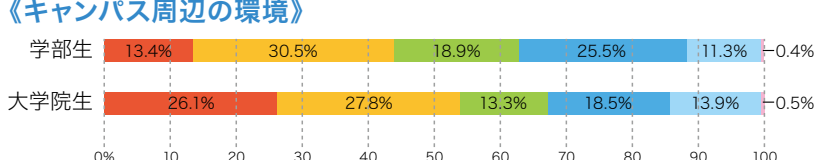
●「自習室」については、学部生の54%、大学院生の40%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《体育館、グラウンドなどの施設》



●「体育館、グラウンドなどの施設」については、学部生の33%、大学院生の32%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

《キャンパス周辺の環境》



●「キャンパス周辺の環境」については、学部生の44%、大学院生の54%が「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答した。

■ 満足している ■ まあまあ満足している ■ どちらともいえない ■ 少し不満である ■ 大いに不満である ■ 存在しない



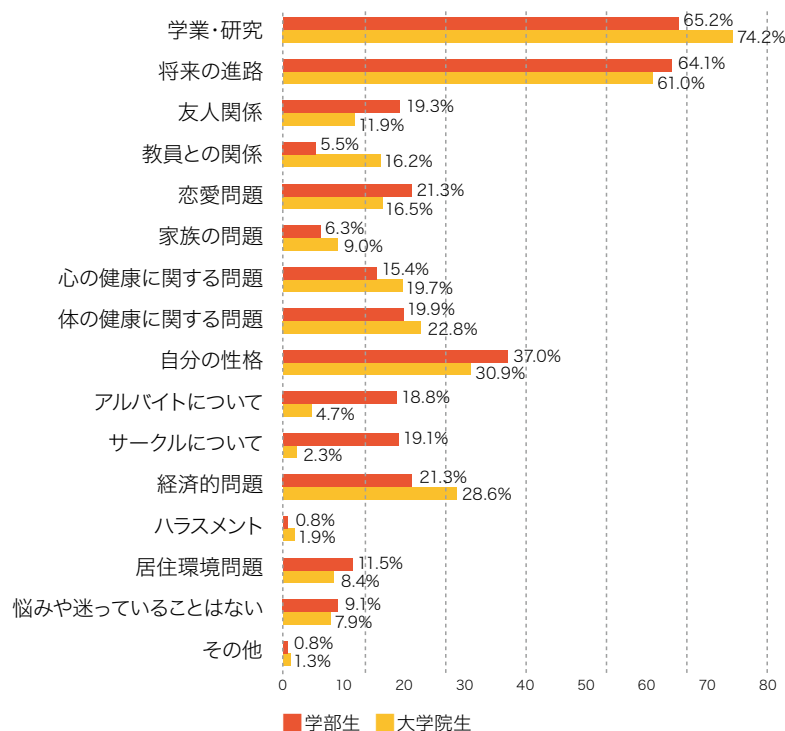
- インターネットがどこでも繋がると嬉しい。
- 学務情報システムに掲示板の情報を反映してほしい。
- ラウンジや自習室のスペースを増やしてほしい。

- 食堂のメニュー、値段、混雑を何とかしてほしい。
- 生協以外の業者も入れてほしい。
- キャンパス全面禁煙なので、守ってほしい。

学生相談所の利用経験、認知度

- 学生相談所を「利用したことがある」と回答した学部生は7%、大学院生は10%、「利用したいと思ったことがある」と回答した学部生は5%、大学院生は10%であった。
- 利用の希望の有無にかかわらず、学生相談所の存在を知っているのは、学部生の72%、大学院生の79%であった。

現在の悩みや迷い（複数回答）



- 主な悩みとして、学部生では、「学業・研究」65%、「将来の進路」64%、「自分の性格」37%、「恋愛問題」21%、「経済的問題」21%であった。大学院生では、「学業・研究」74%、「将来の進路」61%、「自分の性格」31%、「経済的問題」29%「体の健康に関する問題」23%であった。



悩みの相談相手（複数回答）

- 主な悩みの相談相手として、学部生では、「日本人の知人・友人」69%、「母親」54%、「父親」29%、「配偶者・恋人」17%、「兄弟姉妹」13%であった。大学院生では、「日本人の知人・友人」59%、「母親」42%、「配偶者・恋人」28%、「父親」26%、「東北大学の教員」21%であった。

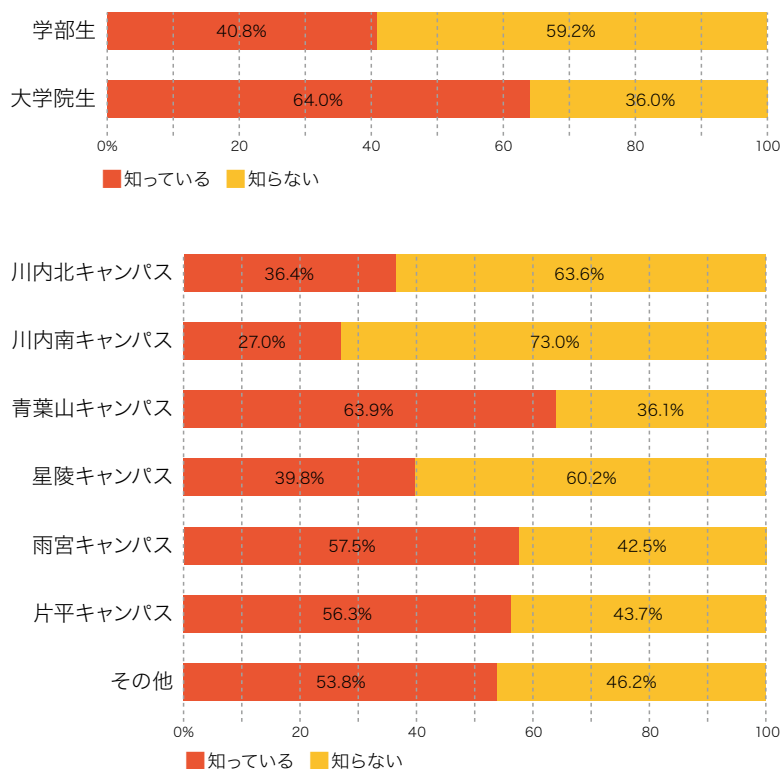
朝食について

- 「毎日食べている」と回答した学部生は62%、大学院生は52%であり、「ほとんど食べない」と回答した学部生は14%、大学院生は25%であった。

大学における「居場所」感

- 大学に居場所があると感じていると回答したのは、学部生・大学院生ともに87%であった。

避難場所の認知度

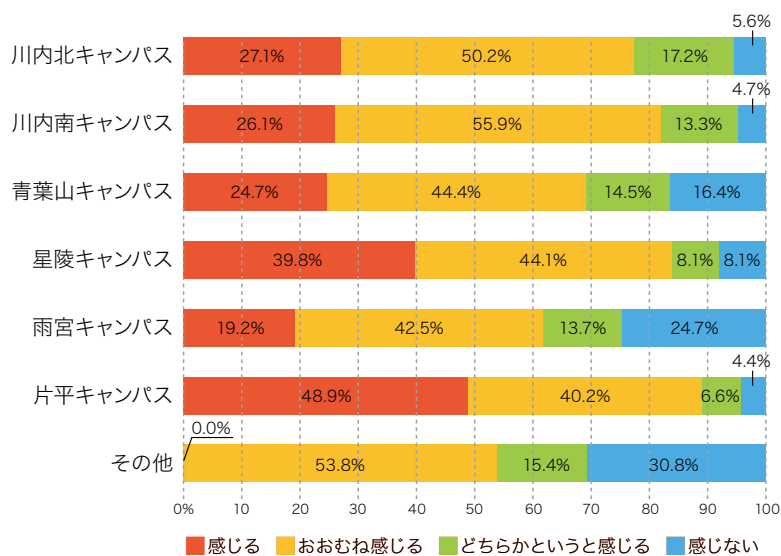


●通っているキャンパスの避難場所を「知っている」のは学部学生で41%、大学院生で64%であった。

●キャンパス別にみると青葉山では64%の学生が知っていたが、川内南では27%、川内北では36%、星陵では40%であった。



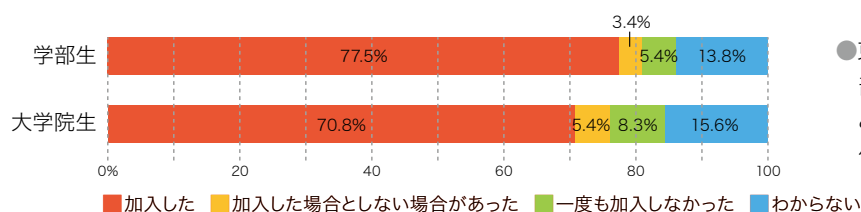
キャンパスの安全性



●自分のキャンパスを安全と「感じる」または「おおむね感じる」学生は、片平が89%と最も高く、星陵84%、川内南82%、川内北77%、青葉山69%、雨宮62%であった。

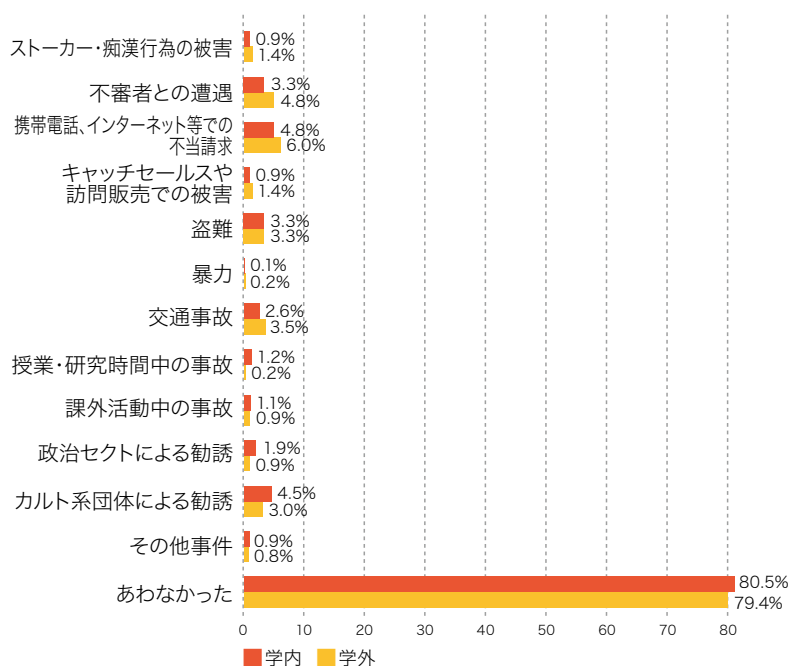
●安全と「感じない」学生は、雨宮では25%、青葉山では16%だった。その理由として雨宮通学者は「建物や施設の老朽化」、青葉山通学者は「クマの出没など、立地や通学路の不安」を挙げる学生が多かった。

海外渡航経験と旅行保険



●東北大学入学後の海外渡航経験は、学部生は23%、大学院生は46%が「ある」と回答した。そのうち70%以上が旅行保険に加入していた。

事件・事故の被害

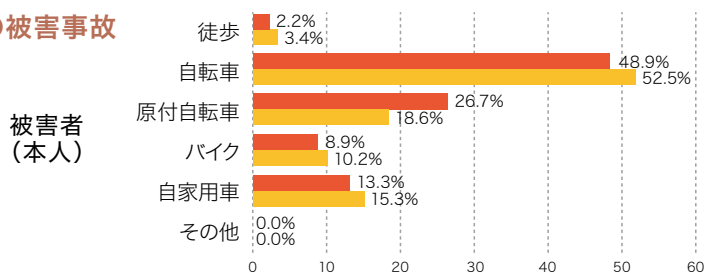


●過去1年間に学内で何らかの被害を体験した学生は20%、学外での体験者は21%であった。内訳としては、学内では「携帯電話、インターネット等での不当請求」「カルト系団体による勧誘」「不審者との遭遇」「盗難」などが、学外では「携帯電話、インターネット等での不当請求」「不審者との遭遇」「交通事故」「盗難」が比較的多かった。

●カルト系団体から勧誘されたことのある学生は、学内では5%、そのうち勧誘回数は1回(53%)で勧誘された時期は1年生(75%)の4月(39%)、次いで10月(14%)、5月と7月(ともに12%)が多かった。学外(3%)では「自宅・アパート」「街中」で勧誘されており、勧誘された回数と時期は学内と同様の傾向であった。

《交通事故の状況》

●被害事故

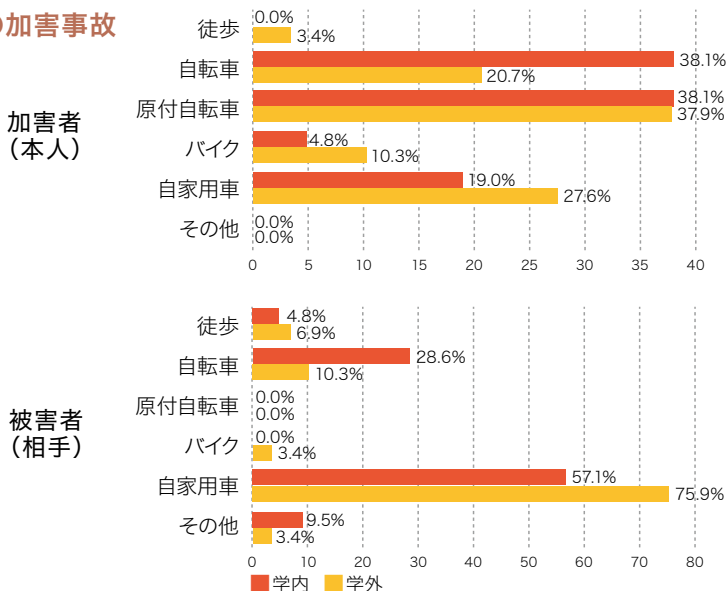


●交通事故では、加害事故よりも被害事故が多く、学内での事故の65%、学外での事故の64%が被害事故であった。

●学内での被害事故の場合、自転車(49%)が原付(27%)に乗って自家用車(56%)から被害を受け、加害事故の場合も、自転車か原付(ともに38%)に乗って自家用車(58%)への加害者となるケースが多い。任意保険には被害の場合80%、加害の場合67%が加入していた。

●学外での被害事故の場合、自転車(53%)に乗って自家用車(50%)から被害を受け、加害事故の場合は、原付(38%)や自家用車(28%)に乗って自家用車(76%)への加害者となるケースが多い。任意保険には被害の場合80%、加害の場合83%が加入していた。

●加害事故

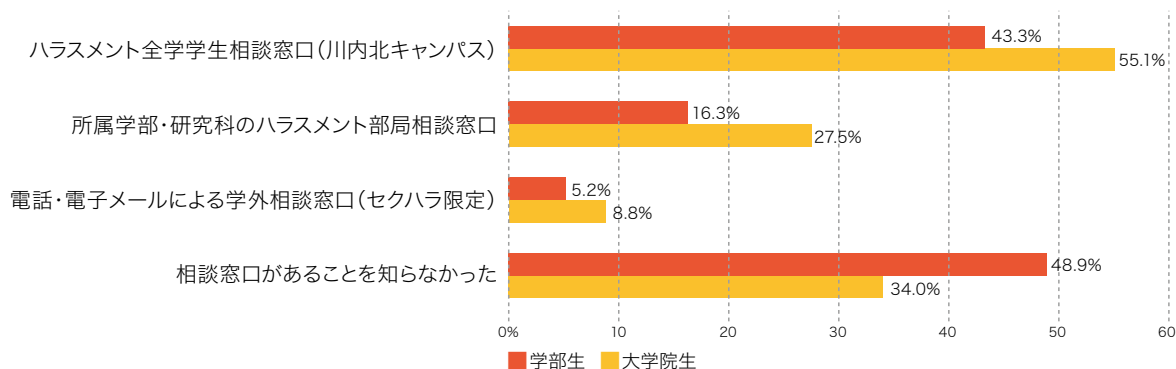


本学のハラスメント問題へ取り組み

- 「知っていた」と回答した学部生は39%、大学院生は59%であった。

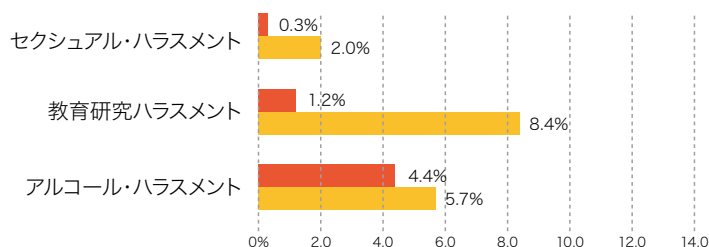
ハラスメント相談窓口の認知度

- 全学学生相談窓口を「知っている」と回答したのは、学部生で43%であり、大学院生で55%であった。部局(学部研究科)の相談窓口を「知っている」と回答したのは、学部生で16%、大学院生で28%であった。「ハラスメント相談窓口を知らなかった」のは、学部生で50%、大学院生で34%であった。



ハラスメント被害の経験

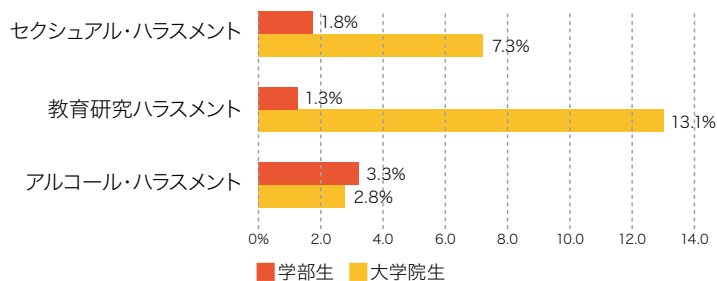
《ハラスメント被害の経験(男性)》



- セクシュアル・ハラスメントを受けたことがあると回答したのは、学部生では、男子学生が0.3%、女子学生が1.8%、大学院生では、男子学生が2.0%、女子学生が7.3%であった。

- 教育研究ハラスメントを受けたことがあると回答したのは、学部生では、男子学生が1.2%、女子学生が1.3%、大学院生では、男子学生が8.4%、女子学生が13.1%であった。

《ハラスメント被害の経験(女性)》

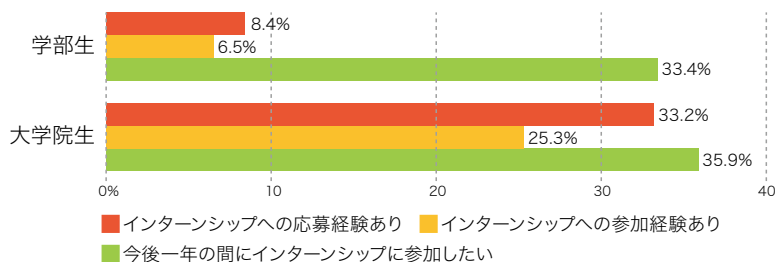


- アルコール・ハラスメントを受けたことがあると回答したのは、学部生では、男子学生が4.4%、女子学生が3.3%、大学院生では、男子学生が5.7%、女子学生が2.8%であった。



- アカハラの可能性がある研究室を徹底的に洗い出して大学側として把握してほしい。
- サポートの存在をもっとアピールしてもよいと思う。
- ハラスメントの相談方法をもっとわかりやすくしてほしい。
- 川内のハラスメント相談窓口は、学生にとってかなりありがたいと聞いているのでこれからも頑張してほしい。

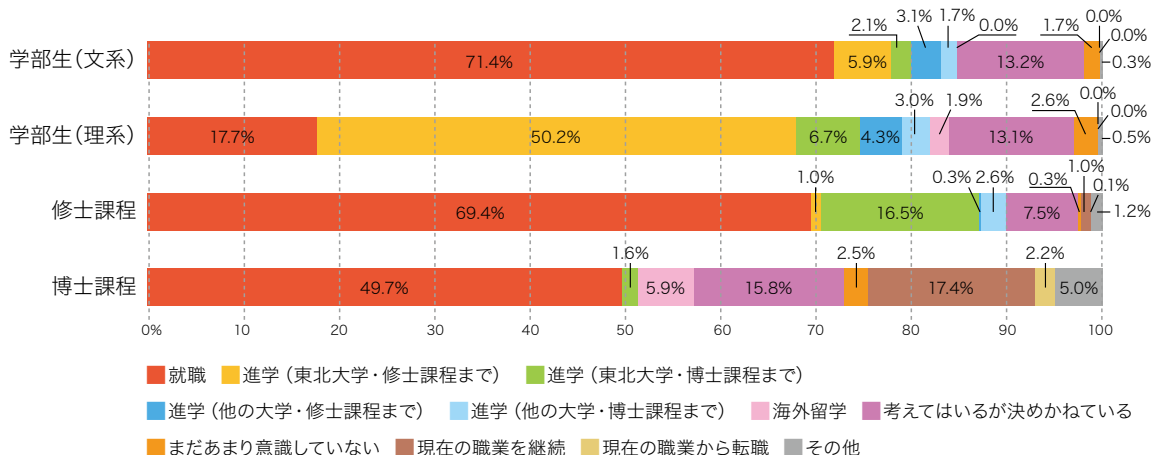
インターンシップへの応募・参加経験



●学部生の8%がインターンシップへの応募経験を持ち、7%が実際に参加した経験を持っていた。また、33%が今後一年の間にインターンシップに参加したいと回答した。
大学院生では、33%が応募経験を持ち、実際の参加経験者は25%であった。また、36%が今後一年の間にインターンシップに参加したいと回答した。

卒業後に希望する進路

- 文系の学部生では、「就職」が71%、「進学(東北大学・修士課程まで)」が6%、「進学(東北大学・博士課程まで)」が2%、「考えてはいるが決めかねている」が13%などであった。
- 理系の学部生では、「進学(東北大学・修士課程まで)」が50%、「進学(東北大学・博士課程まで)」が7%、「進学(他の大学・修士課程まで)」が7%、「就職」が18%、「考えてはいるが決めかねている」が13%などであった。
- 修士課程では、「就職」が69%、「進学(東北大学・博士課程まで)」が17%、「考えてはいるが決めかねている」が8%などであった。
- 博士課程では、「就職」が50%、「現在の職業を継続」が17%、「海外留学」が6%、「考えてはいるが決めかねている」が16%などであった。



希望する職業(複数回答)

- 文系の学部生では、40%が「事務職」、21%が「専門職」、17%が「営業・販売職」、「研究職」と「教育職」がそれぞれ10%、25%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 理系の学部生では、46%が「研究職」、33%が「技術職」、20%が「専門職」、17%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 修士課程では、53%が「研究職」、48%が「技術職」、11%が「専門職」、11%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 博士課程では、64%が「研究職」、16%が「技術職」、15%が「専門職」、8%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。

勤務先として希望する機関等(複数回答)

- 文系の学部生では、58%が「民間企業」、33%が「国および関係機関」、23%が「地方自治体」、20%が「学校・大学」、15%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 理系の学部生では、52%が「民間企業」、37%が「国および関係機関」、44%が「地方自治体」、18%が「学校・大学」、13%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 修士課程では、72%が「民間企業」、27%が「国および関係機関」、18%が「地方自治体」、20%が「学校・大学」、8%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。
- 博士課程では、39%が「民間企業」、34%が「国および関係機関」、16%が「地方自治体」、41%が「学校・大学」、6%が「考えてはいるが決めかねている」と回答した。



平成27年度〈東北大学学生生活調査〉のまとめ

東北大学生の生活

Life of Tohoku University
Students

[発 行] 東北大学学生生活支援審議会
平成28年3月

